

7-3 内陸部の地震空白域における地殻変動連続観測

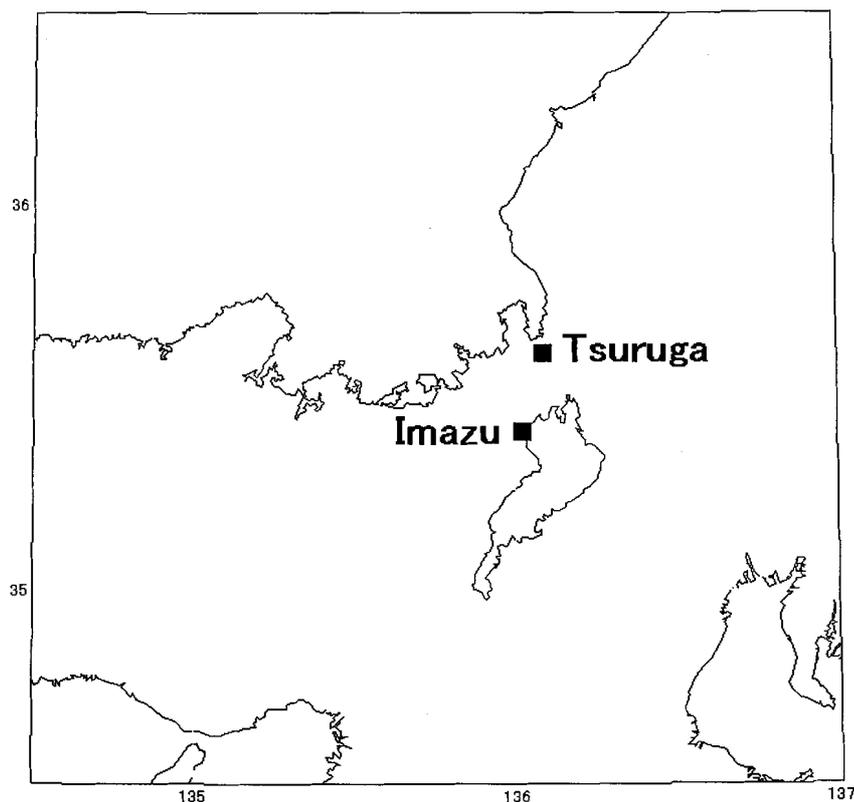
Continuous Observations of Crustal Deformations in and around Intraplate Seismic Gaps

気象研究所

Meteorological Research Institute

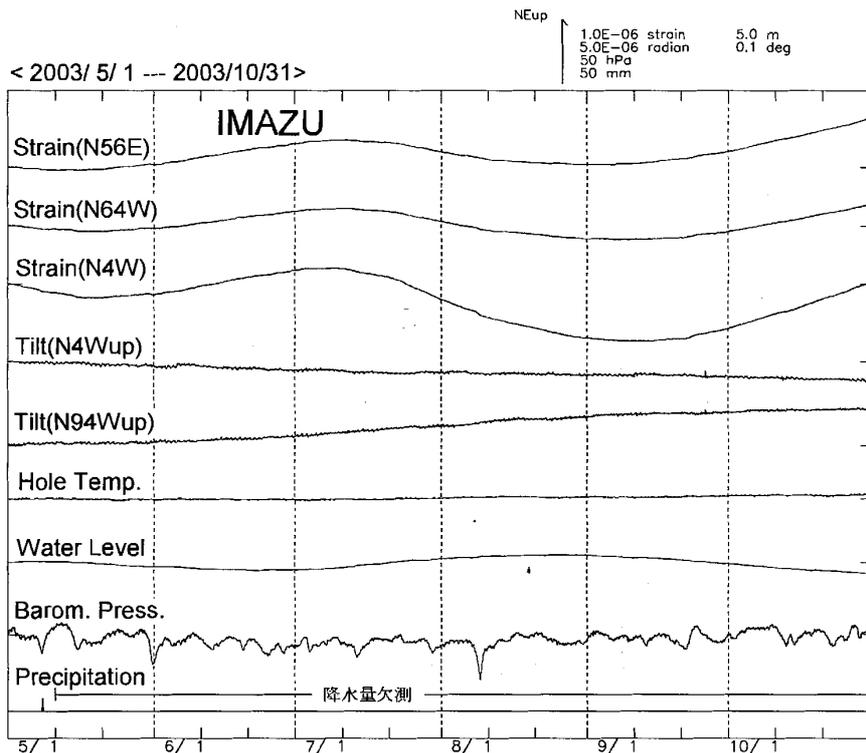
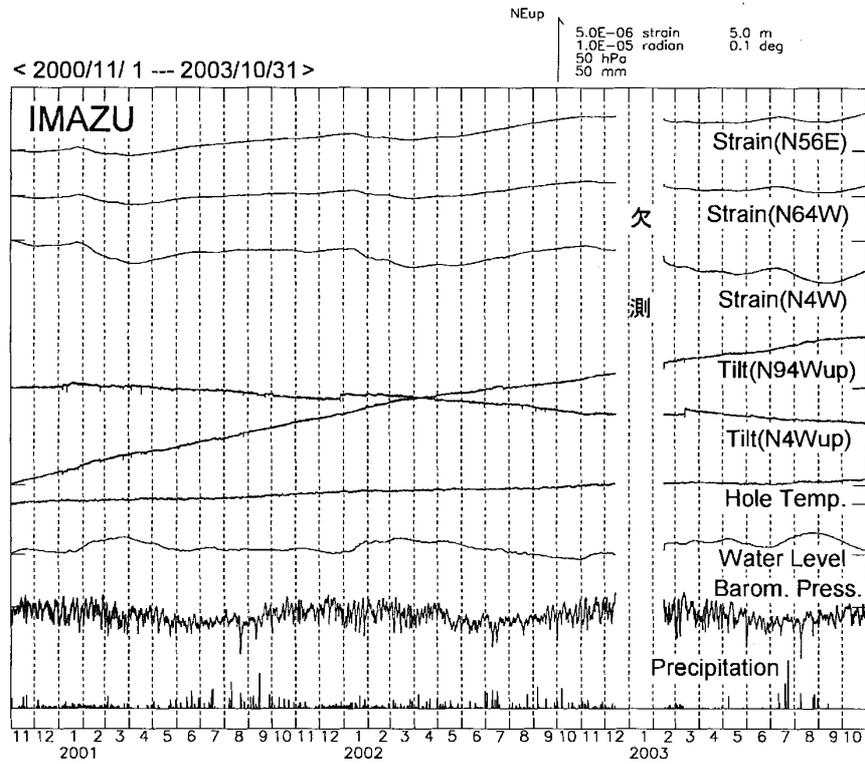
気象研究所では、いわゆる「内陸部の地震空白域」の調査研究のため、近畿地方の今津（滋賀県、 $35^{\circ} 25' 18''$ N、 $136^{\circ} 00' 52''$ E）および敦賀（ $35^{\circ} 37' 04''$ N、 $136^{\circ} 04' 12''$ E）に石井式三分歪計、傾斜計からなる地殻変動観測施設を設置し（第1図）、1996年5月より連続観測を行っている。

第2、3図に今津・敦賀観測点の2000年11月1日～2003年10月31日の3年間、および2003年5月1日～2003年10月31日の6ヶ月間の観測データ（時間値）をそれぞれ示す。今津・敦賀とも停電による影響があるほかは、敦賀の傾斜（N52Eup）に2001年1月から変化が見られるが、この原因は不明である。



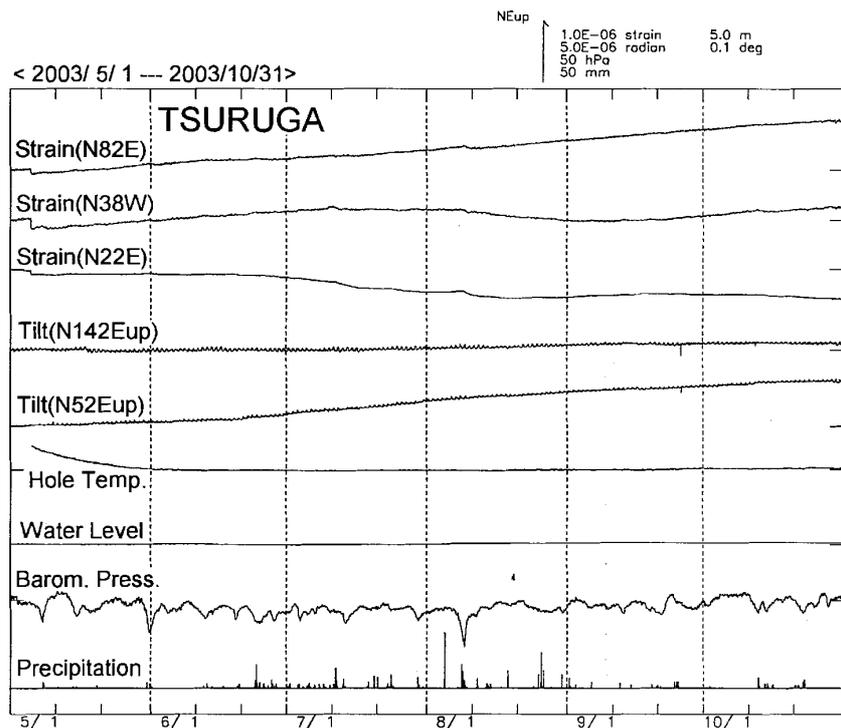
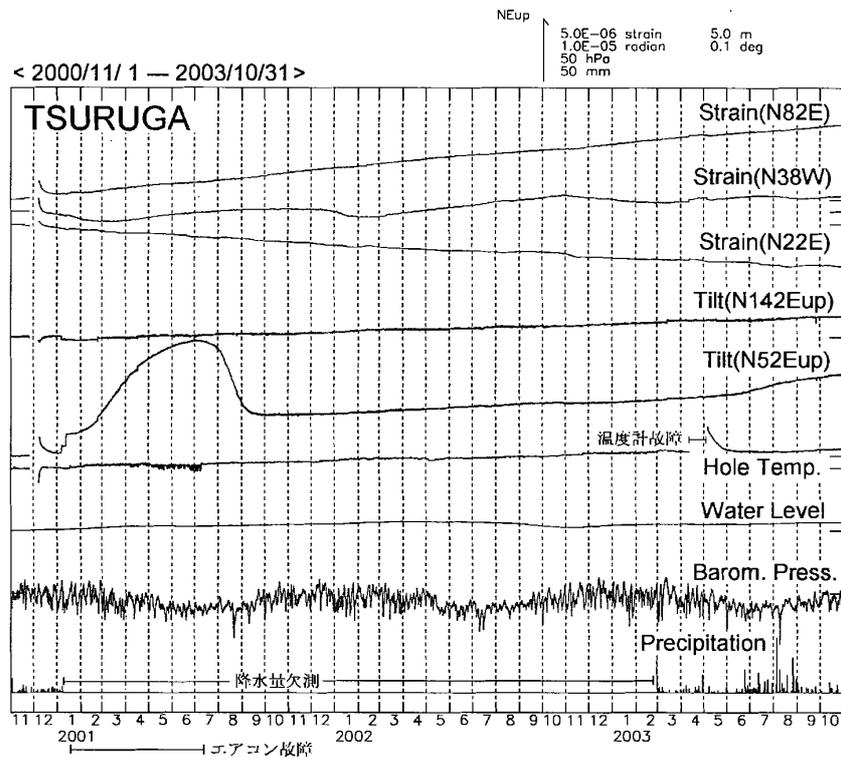
第1図 今津・敦賀観測点の位置

Fig.1 Locations of crustal deformation observation stations (Imazu and Tsuruga)



第2図 今津観測点における（上）2000年11月～2003年10月、（下）2003年5月～2003年10月の歪・傾斜変化（時間値）。2002年12月中旬から2003年2月中旬の欠測は収録装置の故障のため。

Fig.2 (Upper) Changes of crustal strain and tilt at Imazu from Nov. 2000 to Oct. 2003. (Lower) Changes of them from May 2003 to Oct. 2003. Data from the middle of Dec. 2002 to the middle of Feb. 2003 was lost by a trouble of the recording instruments.



第3図 敦賀観測点における（上）2000年11月～2003年10月、（下）2003年5月～2003年10月の歪・傾斜変化（時間値）。2000年11～12月の変化は停電のため。2001年1月からの傾斜（N52Eup）変化の原因は不明。2003年4月中旬から5月上旬の歪変化は温度計故障のため。

Fig.3 (Upper) Changes of crustal strain and tilt at Tsuruga from Nov. 2000 to Oct. 2003. (Lower) Changes of them from May 2003 to Oct. 2003. The cause of the tilt change (N52Eup) from Jan. to Sep. 2001 is unknown. Step-like strain changes between the middle of Apr. and the beginning of May 2003 were caused by a trouble of the thermometer.